

(3) 認知症に係る総合的な支援について

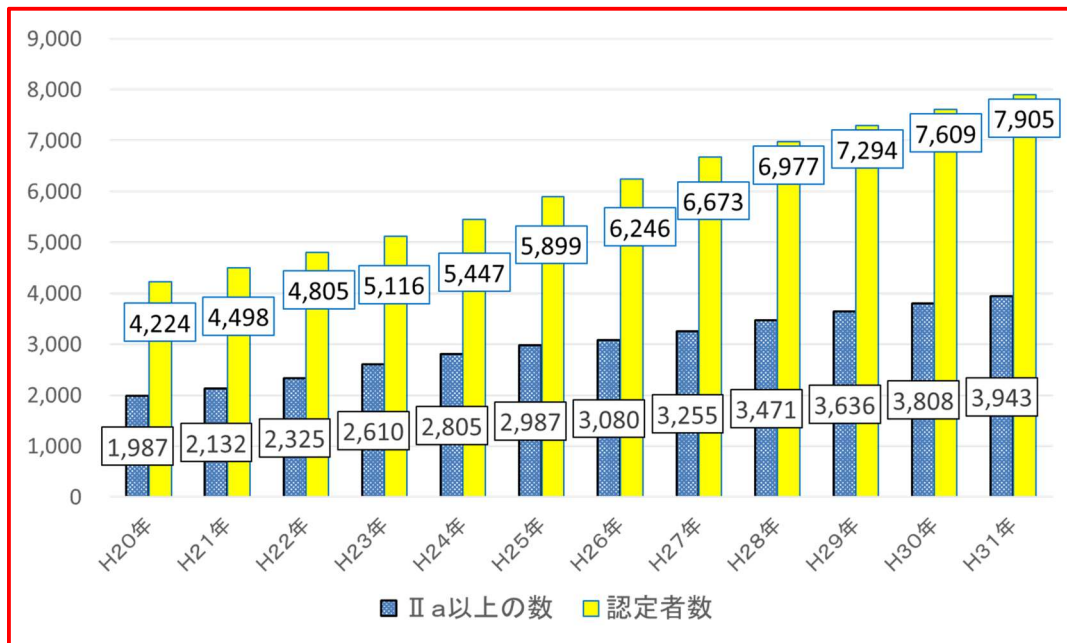
要介護認定者の増加に比例して、認知機能の低下がある方が増え続けていることから《[図1参照](#)》、認知症の方に対する支援については、第7期において重点事項に掲げ、取組を進めてきました。

国では、平成27年1月に策定した認知症施策推進総合戦略（通称：新オレンジプラン）において、「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現」を掲げています。

新オレンジプラン及び認知症施策推進大綱（令和元年6月）の実現のため、第8期でも、引き続き認知症対策に重点的に取り組み、より具体的で効果的な施策の展開を図ります。

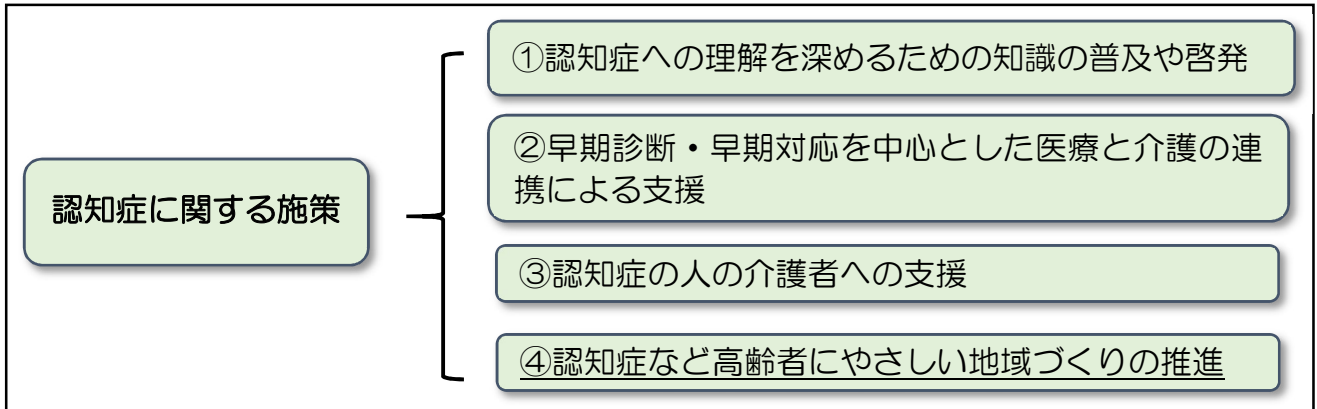
施策の体系として、「①認知症への理解を深めるための知識の普及や啓発」、「②早期診断・早期対応を中心とした医療と介護の連携による支援」、「③認知症の人の介護者への支援」、「④認知症など高齢者にやさしい地域づくりの推進」に分類し《[図2参照](#)》、これらをバランスよく実施していきます。

図1) 認知機能の低下があると評価された要介護（要支援）認定者数の推移



*注： 図1は、要介護（要支援）認定の主治医意見書において、認知症高齢者の日常生活自立度がⅡ a（買い物、金銭管理等それまでできたことにミスが目立つ等）以上の評価を受けた方の数です。

図2) 認知症施策の分類



①認知症への理解を深めるための知識の普及や啓発

ア) 認知症サポーター養成事業 (介護支援課)

【事業概要】

主に高齢者なんでも相談室により、地域住民や銀行、スーパーマーケットなどの職場等を対象として、認知症に関する正しい理解の普及を図る、認知症サポーター養成講座を開催しています。認知症の人やその家族が安心して暮らし続けられる地域づくりの支援者となります。

これまで、地域住民のほか、地域の自治会や小中学校、高校、市役所、企業においても実施してきました。

サポーター養成講座修了者は、令和2年3月31日（最終版は令和2年10月1日）時点で、17,198人となっています。

【取組の方向性】

認知症を抱える人は今後も増加していくものと見込まれます。したがって、認知症サポーターの養成は、引き続き取り組むべき施策と捉えています。

より多くの市民に受講していただくため、認知症サポーター養成講座を生活に密着したスーパーマーケットや銀行、交通機関職員、警察の方々に受講してもらえるよう働きかけるよう努めます。また、既に認知症サポーター養成講座を受講した方が一歩前進した学習や実践的な活動ができるような機会を設けていきます。

項目		平成30年度	令和元年度	令和2年度
計画値	サポーターの常駐している施設等	70箇所	78箇所	86箇所
実績値		73箇所	78箇所	

イ) 認知症に関するイベントの開催

【事業概要】

地域住民の認知症に対する理解を深め、認知症になっても安心して生活を続けられる地域づくりを進めるため、地域住民を対象とした認知症に関するイベント等を開催しています。

また、平成 26 年度から世界アルツハイマー月間（9 月）に合わせ、9 月を「認知症月間」として各種イベントを実施し、相乗的な普及効果を図っています。

【取組の方向性】

「認知症月間」を中心に、認知症に関する講演会や体験型のイベント、広報紙など、広く市民を対象に認知症の普及啓発に関する企画を実施していきます。

項目		平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
実績値	講演会	78人		実施予定
	認知症啓発イベント・ パネル展示	125人 2日間	72人 1日間	
	VR 認知症体験会		170人	2回予定
	認知症パンフレット			55,500部 予定
	図書館認知症コーナー	9月実施	9月実施	実施予定

②早期診断・早期対応を中心とした医療と介護の連携による支援

ア) 認知症ケアパス（状態に応じた適切なサービス提供の流れ）の普及

【事業概要】

標準的な認知症ケアパスとは、認知症を発症したときから、生活機能障害が進行していく中で、その進行状況にあわせて、認知症の人が、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスや成年後見制度等を利用すればよいか、大まかな道筋を示したものです。

第7期には、認知症に関する基本的な知識や、相談窓口、介護予防など、認知症に関する情報を整理し、平成29年度に発行した流山市認知症ケアパス「知ってて安心 認知症安心ガイドブック」を毎年更新しています。ホームページや介護支援課、高齢者なんでも相談室等で配布しています。

【取組の方向性】

適時情報を更新し、状態に応じた適切なサービスが提供されるよう、相談や認知症に関する講座等の機会等を通じて配布していきます。

図3) 流山市認知症ケアパス「知ってて安心 認知症安心ガイドブック」



イ) 認知症地域支援推進員の配置

【事業概要】

また、「認知症地域支援推進員」は、認知症の方の状態に応じて必要なサービスが適切に提供されるように、医療機関や介護サービス、地域の支援機関をつなぐ連携支援のほか、認知症ケアパス「知ってて安心 認知症安心ガイドブック」の作成・普及や認知症の人やその家族を支援する相談業務等を行います。

【取組の方向性】

各高齢者なんでも相談室や市内の高齢者福祉施設へ配置できるよう整備を進め、認知症に関する相談窓口の拡大に努めていきます。

項目		平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
計画値	認知症地域支援 推進員の人数	20人	24人	28人
実績値		30人	30人	

ウ) 認知症初期集中支援チームの設置

【事業概要】

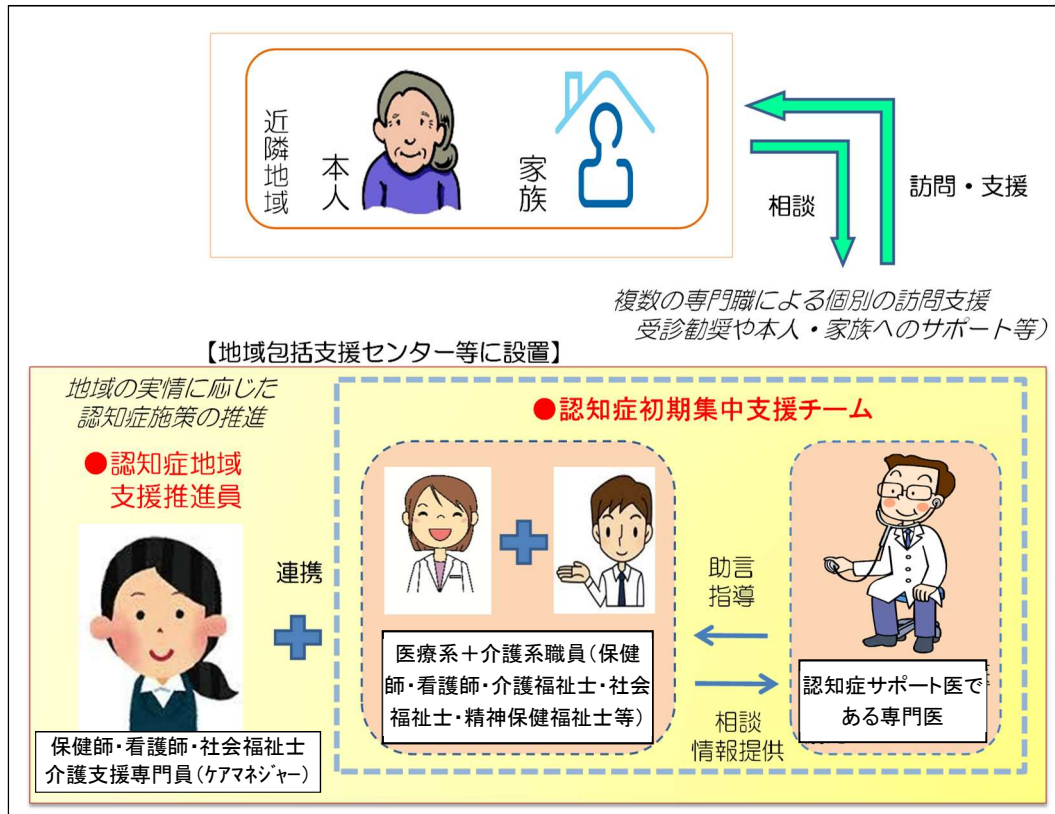
認知症を抱える人への対応は、その発症の早期の時点において、本人及び家族に対し、医療機関への受診、必要に応じた介護サービス等の利用に結びつけることが重要です。

早期の対応を行う仕組みとして、流山市在宅医療介護連携拠点事業で検討・議論し、平成27年度末に介護支援課に「認知症初期集中支援チーム」を設置しました。その役割は、認知症サポート医や専門医からの助言を受けつつ、本人の居宅を訪問し、その状態を観察・評価して、医療・介護のサービスや制度の利用につながるように包括的・集中的に支援するものです。《[図4参照](#)》

【取組の方向性】

引き続き早期対応に努め、対応方法のノウハウの構築や関係機関とのスムーズな連携体制の構築を目指していきます。

図4) 認知症初期集中支援チーム等のイメージ



③認知症の人の介護者への支援

ア) 認知症の方を支える家族の会

【事業概要】

介護者支援のため、家族（介護者）同士の情報交換や交流を図ることを目的として、市及び高齢者なんでも相談室が隔月で認知症の方を介護する家族のための集いを開催しています。助言者や専門職から認知症に関する情報提供やアドバイスをおこない、介護者の心身の健康保持や介護負担の軽減に努めています。

【取組の方向性】

引き続き認知症の人と家族の会千葉県支部や認知症サポート医などの助言者を招き、介護者の精神的負担の軽減を図られるよう運営していきます。

また、第6期で民間事業者が主催する「認知症カフェ」が立ち上がっており、第8期においても、高齢者なんでも相談室と連携し、広報への協力や助言者の派遣などにより運営の支援を行います。

イ) 若年性認知症の方と介護者への支援

【事業概要】

若年性認知症は、65歳未満に発症する認知症であり、経済的な問題や配偶者に介護の負担が集中するという特徴があります。

また、医療・介護だけでなく雇用や障害等様々な制度に関する支援が必要となります。

このような特徴があることから、若年性認知症の方と介護者を対象に、心身の健康保持や介護負担の軽減のため、本人や家族（介護者）への情報提供や参加者同士の交流、助言者や専門職からアドバイスを行う若年性認知症の集いを平成29年度から開催しています。

また、若年性認知症に関する個別相談を受けた際には、必要に応じ千葉県若年性認知症コーディネーターと適切に連携し、支援しています。

【取組の方向性】

引き続き若年性認知症の方が適切な支援を受けられるようこれらの取り組みを継続します。

④認知症など高齢者にやさしい地域づくりの推進

ア) SOSネットワーク

【事業概要】

警察、市、金融機関、学校、医療機関、老人ホーム、コンビニエンスストア等と連携するとともに、安心メールで市民にも協力を依頼し、早期に徘徊等の行方不明者を発見・保護し、徘徊する高齢者を介護する家族などの安心の一助を図ります。

【取組の方向性】

徘徊等の行方不明者が広域的に移動した場合、1市だけでの対応では困難となっています。また、徘徊等による行方不明者が発生した場合は、迅速に情報共有を行うことが必要です。夜間や休日の連絡には制約が生じることがあります。

認知症の人や家族の不安感の軽減を図るため、今後も事業の継続を図るとともに、広域対応、夜間、休日対応を検討していきます。

また、流山市安心メールを活用し、迅速な情報収集に役立てます。

イ) チームオレンジの整備

【事業概要】

認知症サポーター養成講座を受講して「認知症についての正しい知識」を身に着けた認知症サポーターが誕生しています。

今後、地域において認知症の人や家族の困りごとと認知症サポーターをつなげる具体的な取り組みを進め、認知症になっても安心して暮らせる地域を目指していきます。チームオレンジは、認知症サポーターの認知症の人や家族を「温かく見守る理解者」から一步進んだ活動で、認知症の人にもメンバーの一員として役割を持ち、地域住民等のサポーターと一緒に、地域の認知症の人の話し相手や見守りなどを行います。

【取組の方向性】

今後、認知症サポーターを対象にした、チームのメンバーとなるためのステップアップ研修の開催及び既存のオレンジカフェに併設し、カフェのスタッフとして役割を担ったり、認知症の人の話し相手になる等の活動を検討し、チームオレンジの立ち上げを目指します。

また、認知症地域支援推進員にチームオレンジへの協力を働きかけていきます。